

令和7年度那覇市歴史博物館 重要文化財指定答申記念 特別展  
「琉球家譜～国王に仕えた士の人生～」関連催事  
シンポジウム「琉球家譜の研究現状と展望」

1. 趣旨

令和7年3月21日、国の文化審議会は、文部科学大臣に対して、当館所蔵の琉球家譜45冊と琉球家譜関係文書129通を重要文化財に指定するよう答申しました。今後、官報告示をもって正式に重要文化財となり、当館所蔵の資料としては、国宝「琉球国王尚家関係資料」（平成18年指定、令和元年追加指定）、重要文化財「伊江御殿家関係資料」（令和元年指定）に続き3件目の指定となる予定です。

今回、重要文化財指定の答申を記念して行われる特別展の関連催事として、「琉球家譜」及び「琉球家譜関係文書」に関するシンポジウムを開催いたします。琉球王国崩壊後も各家庭で大切に保管され、戦火を逃れ現代に受け継がれてきた貴重な文化財である「琉球家譜」及び「琉球家譜関係文書」の研究現状と、これから期待される役割を市民・県民に広く紹介することで、琉球・沖縄が歩んできた歴史文化に対する理解を深めます。また、「琉球家譜」及び「琉球家譜関係文書」の重要性を周知することで、各家庭で埋もれてしまっている琉球家譜関係資料の保存・活用の促進を図ります。

2. 日時

令和7年7月26日（土）13:00～17:00

3. 場所

沖縄県立図書館 ホール

4. 登壇者

- ・宮田 直樹（みやた なおき。文化庁担当調査官）  
※今回の重要文化財指定に係る文化庁の担当者。
- ・田名 真之（だな まさゆき。前沖縄県立博物館・美術館館長）  
※元那覇市市民文化部歴史資料室長、元沖縄国際大学教授。琉球家譜研究の第一人者。
- ・渡辺 美季（わたなべ みき。東京大学教授）  
※第40回伊波普猷賞受賞。専門は近世琉球を中心とした東アジア国際関係史。
- ・玉城 毅（たまき たけし。奈良県立大学教授）  
※『琉球・沖縄寄留民の歴史人類学』（共和国、2022年）の著者。専門は文化人類学。
- ・麻生 伸一（あそう しんいち。琉球大学教授）  
※2015年比嘉春潮賞受賞。専門は近世琉球史。首里城や外交儀礼など幅広く研究。
- ・伊集 守道（いじゅ もりみち。那覇市歴史博物館主任学芸員）  
※今回の重要文化財指定に係る那覇市歴史博物館の担当者。